

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

臨床放射線 (1997.03) 42巻3号:404~405.

破裂により発見された巨大動脈瘤を伴う腎血管筋脂肪腫の1例

峯田昌之、齊藤泰博、山田有則、遠山節子、片田竜二、山本和香子、後藤卓美、油野民雄

## 破裂により発見された巨大動脈瘤を伴う腎血管筋脂肪腫の1例

峯田昌之\* 斉藤泰博\* 山田有則\* 遠山節子\*  
片田竜二\* 山本和香子\* 後藤卓美\* 油野民雄\*

腎血管筋脂肪腫（以下AML）は腎に発生する比較的まれな良性腫瘍である。今回我々は、破裂により発見された巨大動脈瘤を伴うAMLを経験したのでCT, MRI, 血管造影所見を含めて報告する。

症例：30歳，女性

主訴：左側腹部痛

現病歴：1994年2月12日，突然左背部に激痛が出現した。疼痛は緩和する傾向を示したが，2月25日再度，激痛発作出現したために近医受診し，CT検査にて左後腹膜腫瘍を指摘され，精査のために当院外科入院となった。

入院時現症：眼瞼結膜貧血，左背部に圧痛，叩打痛を認めた。

入院時検査所見：RBC 356, Hb10.2, Ht 32.0, LDH 622であり急性の出血が示唆された。

CT所見：左腎上極部から中央部にかけて径8cm程度大の造影を受けない脂肪成分を示唆するlow density massを認めた。内部には造影を受けるU状部位と球状構造物（図1）を認めた。

MRI所見：T1強調像で腫瘍は高信号を有し，T2強調像では中等度から高信号を有する腫瘍として認められ，CT所見とあわせて脂肪成分の存在が示唆された。U状，球状部分はいずれのイメージにおいても無信号を示しflow voidと考えられた。dynamic studyでは動脈相でU状，球状部が濃染し（図2），巨大動脈瘤の存在が考えられた。

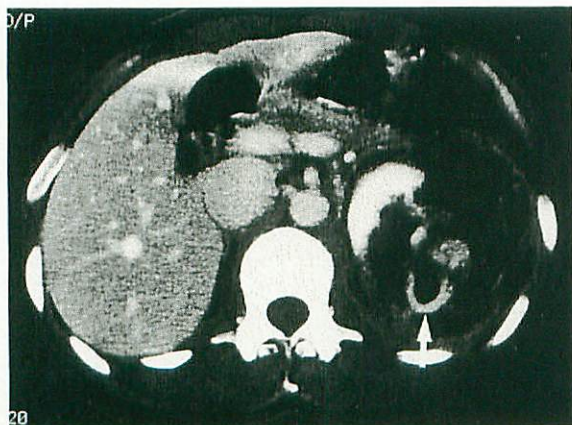


図1 造影CT所見

左腎外側部に脂肪を示唆するdensityが広範に分布している。内部にはU状，球状を呈する構造物が認められる（→）。



図2 dynamic MRI所見

造影初期相でU状部位および球状部位はenhancementを受ける（→）。

\* M. Mineta, Y. Saitoh, T. Yamada, S. Tohyama, R. Katada, W. Yamamoto, T. Gotoh, T. Aburano 旭川医科大学放射線科  
[索引用語：angiomyolipoma, rupture, giant aneurysm]



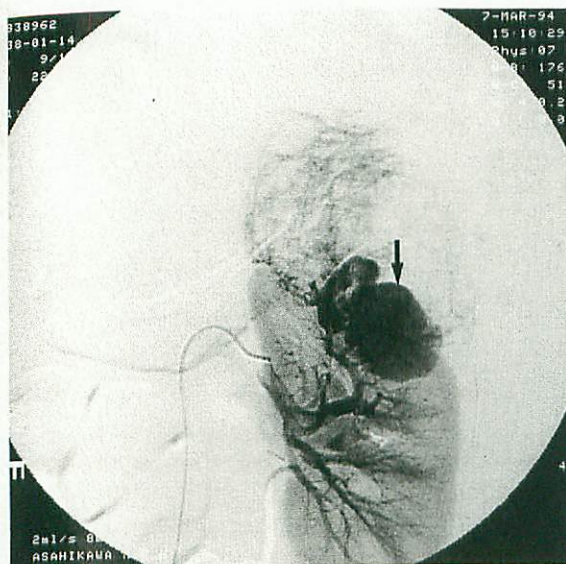


図3 血管造影所見  
左腎上極部に巨大動脈瘤が認められる (→)。

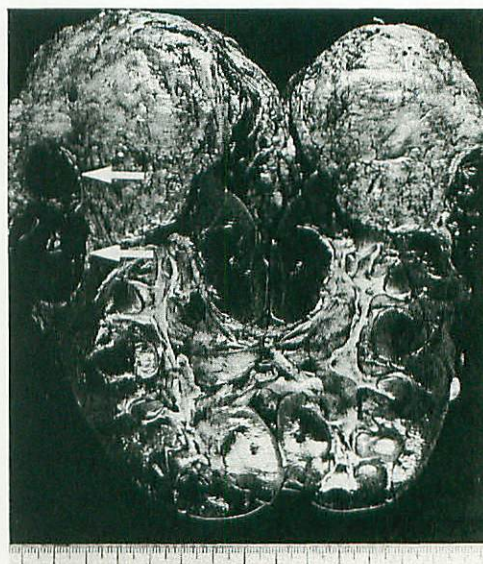


図4 病理所見  
腎上極に脂肪成分に富む腫瘍が認められる。辺縁には巨大動脈瘤が存在する (→)。

血管造影：腫瘍内部に巨大動脈瘤を認め、辺縁にはcapsule arteryが認められた (図3)。

以上の画像所見より左腎AMLと診断し、4月22日に左腎摘出術が施行された。

病理所見：腫瘍辺縁に巨大動脈瘤が認められた (図4)。顕微鏡下では、筋性血管を中心とした不規則な平滑筋束の増生が認められ、その間を成熟脂肪組織が埋める形態が存在しAMLと確定された。

## 考 察

腎AMLは血管、平滑筋、脂肪組織がさまざまな比率で混在する比較的まれな腎の良性腫瘍である。一側性で、単発のものと同結節性硬化症に伴う多発性のものが存在することが知られている。腫瘍は徐々に増大する傾向を有し、周囲組織や血管を圧排し、疼痛や血尿などの症状を呈することがある。生命を脅かすような出血も時には認められ、4cm以上のものは自然破裂が27～51%に存在する<sup>2)</sup>とされている。

CTや超音波診断法などの画像診断の進歩に伴い、無症候性のものが偶然発見されることも多いが、診断のポイントは腫瘍内部の成熟脂肪組織と微小動脈瘤が描出されることである。CTでは脂肪

成分がfat densityを呈するのが特徴であるが、脂肪抑制法などを用いたMRIによる再確認も必要と考えられる。血管造影では動脈相における微小動脈瘤とネフログラム相におけるonion peel appearanceが特徴的とされるが、今回の例では瘤の径が3cmを越える巨大動脈瘤として認められた。一般的に瘤は微小の名の通り1cm以下<sup>4)</sup>とされるが、病態自体に筋性血管の異常を伴っており、巨大動脈瘤の合併も存在すると推測される。しかし、実際は巨大動脈瘤の合併は極めてまれであり、我々が検索した限りでは、過去に1例報告<sup>4)</sup>されているのみであった。AMLを診断する際には、巨大動脈瘤の合併も念頭に置かなければならないと考えられた。

## 文 献

- 1) Morgan GS et al : Angiomyolipoma of the kidney. J Urol 65 : 525, 1951
- 2) Michael J et al : Outcome analysis of 42 cases renal angiomyolipoma. J Urol 152 : 1988-1991, 1994
- 3) 田原良雄ほか：腎周囲出血により発見された腎血管筋脂肪腫の1例. 日内会雑誌 841 : 129-131, 1995
- 4) 山口敏之ほか：腎血管筋脂肪腫に合併した巨大動脈瘤に対して超選択的動脈塞栓術を行った1例. 臨放 37 : 609-612, 1992